

輝く学生生活のために Vol.4



学生たちが企画したさまざまなイベントで賑わう学園祭は、大学の一大イベントです。長崎大学も昭和24年から毎年開催しており、この秋も36回目の「学園祭」が盛大に行われました。そもそも学園祭はなぜ行われるのでしょうか。長崎大学では、学園祭の在り方を次のように位置付けています。



大学の一大イベント、学園祭



長崎大学副学長(学生担当)
菅原 正志 教授
Sugawara Masashi

学園祭の在り方

- 1 学生や教職員という大学構成員の研究活動・文化活動・課外活動の成果を学内外に発表・表現する場である。
- 2 学生が成果の発表や学園祭実施の自主的活動を通じて人間形成をする場である。
- 3 学生・教職員の参加を通して相互の交流を深め、大学のアイデンティティを創造する場である。
- 4 大学の教育研究の成果や施設を地域社会に公開し、地域住民との交流を深める場である。



学部祭を柱にした「学園祭」



学生にとって有意義な経験の場となるはずの学園祭ですが、残念ながら近年では全国的に学生の参加が減少傾向にあります。

現在の「学園祭」は学園祭運営委員会と各学部祭の実行委員会を中心に企画運営されています。より多くの学生が参加できるものをめざした催しは、研究の発表会やスポーツ大会、音楽会、展示会、バザーなど多彩です。さらに各サークルも趣向を凝らした催しを行い学園祭を盛り上げています。



学生生活をエンジョイするために

学園祭の催しを企画したり、運営に携わることで、学生はものごとを創造し実践するという貴重な体験ができます。また、学部を越えた仲間や地域の人々との交流を深めることで、学生生活をより豊かにできるいい機会にもなります。

輝く学生生活のために、もっと積極的に学園祭を盛り上げていきましょう。

留学生の「お国自慢」



インドネシア
Indonesia



アイダ サーチンブルさん
Aida Sartimbul
長崎大学大学院生産科学研究科
博士後期課程システム科学専攻

「一万余りもある島々の多彩な魅力あふれる熱帯の国」

世界的に有名なリゾート地バリ島を擁するインドネシア。首都ジャカルタのあるジャワ島をはじめスマトラ島、カリマンタン島など、インド洋と太平洋の間に散在する島々からなる熱帯の国です。「島の数は一万余り。人口はジャワ島に集中しています。島々には風習の異なる少数民族も多く、各地に個性的な伝統芸能が見られます。そういった多彩な文化がインドネシアの魅力だと思っています」。

4年前、海洋学を学ぶため来日したアイダさんは、ジャワ島東部にあるブラウイジャヤ大学水産学部の講師です。

学部間の絆を深めて、感動満載、学園祭!

去る11月18～20日に行なわれた学園祭。企画・運営の中心となった各祭実行委員会のメンバーもおおいに奮闘。例年にも増して盛り上がりました。



学園祭企画:学長とのしゃべり場(学長と学生の懇談会)

歯学部に対する関心と口腔への理解を深めてもらおうとさまざまな催しを行ないました。困難なことも周囲の協力で無事に乗り切ることができ、ひと回り成長したような気がしています。

歯学部祭代表
中藤 信也
(歯学部 4年)

教育祭は、運営委員の人数が少なく準備がたいへんでしたが、仲間や先輩、他学部祭委員など多くの方々に助けられ、人の絆の大切さを感じました。感謝しています。

教育祭代表
平野 雅之
(教育学部 2年)

学園祭運営の魅力は“人の繋がり”です。一人の力では成せない大きなものを作り上げることができます。今後もより多くの長大生、地域の皆様を巻き込むものを作っていきます。

長大祭代表
四辻 正文
(経済学部 3年)

薬学部祭代表
筒井 翔一
(薬学部 3年)

経済祭代表
長畑 大作
(経済学部 3年)

環境祭代表
小川 多絵
(環境科学部 3年)

この上ない達成感を味わえ、大切な仲間を得ることができ、本当に良かったと思います。環境祭は環境を考える機会のひとつです。来年も後輩たちに大いに期待しています。

多くのおかげで無事に終わることができました。学部そして全体が協力して学園祭を盛り上げるという素晴らしさを学び、充実した時間を過ごせて良かったです。

メインイベントの笑いコンビ「ザブングル」によるライブは大盛況でした。来年、誕生から半世紀を迎える経済祭。節目にふさわしい大物ゲストがやってくることは間違いありません!!

工学祭実行委員会は、工学部を盛り上げようという目標を掲げて活動しています。まだ2年目の団体ですが来年も目標達成に向け、今回の経験を活かして頑張りたいです。

工学祭代表
古賀まり子
(工学部 3年)

水族館やタッチプールでは、熱心に見入る方やサメやナマコを触って歓声を上げる方などおおいに楽しんでいただき、頑張って準備した甲斐がありました。自信につながると同時に、後輩たちにとっても励みになりました。

鴻洋祭代表
田森はる香
(水産学部 3年)



「世界的に海洋の環境の変化が注目されていますがそれを学ぶために長崎大学へ来ました。現在、海面温度と魚の生態の関係について研究をしています。」
 そんなアイダさんのお国自慢は、海の美しさです。各地に美しい海岸があり、ブナケンという世界的に有名なダイビングスポットもあります。また、島々の自然は豊かで、スマトラ島の熱帯雨林にはゾウやトラが生息するなど、いろいろな動物たちがいるそうです。
 「豊かな森を持つカリマンタン島にはオランウータン。バリ島近くの島にはコモドトカゲなど、その地域にしかない貴重な動物もいます。」
 乾季と雨季のふたつの季節があるインドネシア。雨季の雨の降り方は相当なもので、「日本人が、今日の雨はひどいね、と言うような雨はインドネシアでは普通。それが何日も続きます。近頃は、森林の過度な伐採による洪水が懸念されています。」
 この春、留学を終え故郷の大学にもどるアイダさん。「インドネシアでも今の研究を引き続き行いたい。そして子供たちを相手に環境を守るための活動を何かはじめたいと思っています。」